

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月10日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530275

研究課題名（和文） 日本におけるエスニック・マーケットに関する社会経済的研究

研究課題名（英文） THE SOCIL AND ECONOMIC STUDY ON ETHNIC MARKETS IN JAPAN

研究代表者

朴 一 (PARK IL)

大阪市立大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：70208734

研究成果の概要（和文）：本研究グループでは、3年間に渡って、日本におけるエスニック・マーケットの形成プロセスや経済効果について研究してきた東京の新大久保と大阪の生野・鶴橋を中心に韓人マーケットの生成・発展プロセスについて度重なるフィールドワークを行い同地域で起業活動を展開する在日韓人起業家へのアンケート・インタビュー調査を実施してきた研究最終年（2013年）には、韓国・済州大学で開催した国際シンポジウムでこれまでの研究成果を発表し、ワーキング・ペーパーを出版した。

研究成果の概要（英文）：Our group have studied about ethnic market, sespecially Korean markets in Japan for 3years.We tried many field-work in the Korean markets in Tyokyo and Osaka.We presented the fruits of our studing in JEJU University, South Korea and published the Working Paper this year.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：エスニック・マーケット、在日韓人、ニューカマー、日系人、コリアタウン、韓人企業家、韓人マーケット

1. 研究開始当初の背景

(1) 国際経済学における国際労働移動論や移民研究の分野では、エスニック・マイノリティや移民団体の経済活動に関する研究の重要性が高まっている。だが、移民問題に関する感心が希薄な日本の経済学会では、こうした研究は少数であり、ごくわずかな研究者

の間で見られる研究も、移民起業家や移民企業の研究に重点がおかれてきた。

本研究ではこれまであまり注目されてこなかった移民集住地域に形成されたエスニック・マーケットに焦点を当てて、エスニック・グループの経済動向にこれまでとは異なった視点から迫ろうと考えた。

(2) 日本では外国人労働者の流入は、治安悪化のみならず日本人労働者の雇用を奪い、雇用構造にマイナス影響を与えるという考え方が広まっている。しかし、外国人労働者の受け入れは、日本の地域経済や日本の雇用構造に悪影響を与えるだけであろうか。移民労働者や外国人定住者によって形成されるエスニック・マーケットが日本人の雇用や景気にも好影響を与える可能性があるのではないかという素朴な疑問から、本研究はスタートした。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、主に東京の新大久保や大阪の生野・桃谷地域を中心に在日韓人によって形成された2つの大きなエスニック・マーケットに焦点を当て、エスニック・マーケットの形成プロセスや現地経済に及ぼす影響などを歴史的・実証的に考察することを研究の主眼にしてきた。

(2) 研究背景でも述べたが、こうした研究は外国人労働者が日本の雇用構造に及ぼす負の効果という視点が強調されてきた従来の日本の移民研究に一石を投じるものである。

(3) 本研究では、こうした問題意識から、韓人や日系ブラジル人をケースに移民労働者が日本に定住するメカニズム、集住地域を中心に形成されたエスニック・マーケットの構造、および現地経済に与える経済的影響などを研究課題とした。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、まず1年間に渡って、移民企業や移民企業家に関する先行研究を徹底的に集め、これまでの研究の問題点を検出した。

(2) 次に、日本におけるいくつかのエスニック・マーケット(新大久保と生野・桃谷の韓人マーケットと滋賀県・湖南市の日系ブラジル人マーケット)を視察。東京と大阪で開催した研究会における議論を通じてアンケート項目を検討・決定し、アンケート・インタビュー用紙を作成した。

(3) その後、2年間に渡って東京の新大久保と大阪の桃谷・生野地域における韓人マーケットで起業活動を営む韓人起業家へのインタビューや市場調査をおこない、エスニック・マーケットの形成プロセスとその経済的影響について考察を進めてきた。

4. 研究成果

(1) 東京の新大久保と生野・桃谷の韓人マーケットに関するインタビュー調査を踏まえ、報告書を作成し、その成果の一部は2011年12月に開催した「韓国。関西フォーラム

2011—コリアタウンの街づくりを通じた大阪観光・経済活性化—(駐大阪韓国領事館・国土交通省近畿運輸局共催)で公開した。同シンポジウムには100名をこえる参加者があり、市場関係者からも大きな反響があった。

(2) さらに今年(2013年)2月、韓国の済州大学で国際シンポジウム「日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット」を開催。研究メンバーが3年間の研究成果を報告し、ワーキングペーパー『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』(韓国・済州大学・在日済州人センター、2013年)を出版した。同シンポジウムの内容は現地のメディアでも報道され、韓国人研究者からも注目された。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計14件)

- ①永野慎一郎、韓国木浦地方の近代化過程に関する一考察(下)、大東文化大学『経済論集』、査読無、第99号、2013年3月、57-81
- ②梁京姫、在日コリアンの職業選択に関する行動戦略と初職への入職経路、大阪経済法科大学アジア研究所『東アジア研究』、査読有、第59号、2013年3月、35-55
- ③朴一、日本における韓人マーケットの形成と発展、ワーキング・ペーパー『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』済州大学・在日済州人センター、査読無、2013年2月、27-36
- ④永野慎一郎、済州島経済発展への在日済州人の貢献、ワーキング・ペーパー『日本における韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』済州大学・在日済州人センター、査読無、2013年2月、91-105
- ⑤裴光雄、日本における在日韓人企業家研究の動向、ワーキング・ペーパー『在日韓人企業ならびに韓人企業家と韓人マーケット』済州大学・在日済州人センター、査読無、2013年2月、39-49
- ⑥朴昌明、韓国の自営業労働市場に関する一考察『駿河台法学』第26巻第2号、査読無、2013年2月、77-101
- ⑦梁京姫、在日民族系金融機関の設立および成長と韓国進出に関する一考察、ワーキングペーパー『在日韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』済州大学・在日済州人センター、査読無、2013年2月、53-87
- ⑧藤森梓、国際労働力移動と日本における韓人ニューカマー、ワーキング・ペーパー『在日韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』済州島大学・在日済州人セン

- ター、査読無、2013年2月、11-24
- ⑨永野慎一郎、韓国木浦地方近代化過程に関する一考察（上）、大東文化大学経済論集、査読無、第97号、2012年3月、95-119
- ⑩藤森梓、インド繊維産業主規模事業所の生産性分析、アジア研究（アジア政経学会）、第57巻第3号、査読有、2011年7月、41-54
- ⑪藤森梓、インド製造業の生産性と技術伝播、人間文化研究機構ワーキングペーパー、2011年3月
- ⑫藤森梓、インド小規模製菓企業の技術的効率性に関する実証分析、神戸大学国民経済雑誌、査読有、第202巻第2号、2010年8月、67-88
- ⑬朴一、太陽政策期における北朝鮮の政治・経済システムの変化と連続性—開城工業団地と7・1経済管理改善措置を中心に、大阪市立大学経済学雑誌、査読無、第111巻第1号、2010年6月、81-92
- ⑭朴一、移民企業家と本国経済—在日コリアンによる初期本国投資の事例研究、大阪市立大学経済学雑誌、査読無、第111巻別冊、2010年4月、45-51
- ⑮朴一、在日コリアンの企業家精神とエスニックアイデンティティ、大阪市立大学経済学雑誌、査読無、第110巻第4号、2010年3月、106-118

[学会発表] (計10件)

- ①朴一「日本における韓人マーケットの形成と発展」大阪市立大学・済州大学共同国際シンポジウム『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』韓国・済州大学、2013年2月22日。
- ②永野慎一郎「済州島経済発展への在日済州人の貢献」大阪市立大学・済州大学共同国際シンポジウム『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』韓国・済州大学、2013年2月22日。
- ③裴光雄「日本における在日韓人企業家研究の動向」大阪市立大学・済州大学共同国際シンポジウム『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』韓国・済州大学2013年2月22日
- ④朴昌明「世界金融危機以降の韓国労使関係に関する一考察」ERINA韓国経済システム研究会、2012年6月3日、早稲田大学
- ⑤梁京姫「在日民族系金融機関の設立および成長と韓国進出に関する一考察」大阪市立大学・済州大学共同国際シンポジウム『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』韓国・済州大学、2013年2月22日
- ⑥藤森梓「国際労働移動と日本における韓人ニューカマー」大阪市立大学済

州大学共同国際シンポジウム『日本の韓人企業ならびに企業家と韓人マーケット』韓国・済州大学、2013年2月22日

- ⑦朴昌明「世界金融危機以降の韓国労使関係に関する一考察」、ERINA韓国経済システム研究会、2012年6月3日、早稲田大学
- ⑧藤森梓「インド製造業の生産性と技術 播経済学会春季大会、龍谷大学、2011年6月11日
- ⑨藤森梓「インド経済のグローバリゼーションと産業発展」、南アジア学会全国大会、法政大学、2010年10月2日
- ⑩藤森梓「インド繊維産業小規模事業所の生産性分析」、アジア政経学会西日本大会、京都大学、2010年6月12日駿河台法学

[図書] (計7件)

- ①朴一、日本人と韓国人のホンネとタテマエ、講談社、2012年、206頁
- ②李スニム、朴一、中村尚司、田中宏、木村健二、河明生『在日コリアンの経済活動』不二出版、2012年、270頁
- ③朴一『日本人と韓国人のタテマエとホンネ』講談社、2012年
- ④藤森梓、インドにおける農工関連調査研究報告書、アジア経済研究所、2012年、100頁
- ⑤朴一、僕たちのヒーローはみんな在日だった、講談社、2011年、220頁
- ⑥佐藤隆広、石上悦郎、藤森梓、現代インド・南アジア経済論、ミネルバ書房、2011年8月、414頁
- ⑦水島司、田巻松雄、朴一、加藤弘之、佐藤隆広、日本・アジア・グローバリゼーション、日本経済評論社、2011年、272頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朴一 (PARK IL)
大阪市立大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：70208734

(2) 研究分担者

永野 慎一郎 (NAGANO SHINICHIRO)
大東文化大学・法学部・名誉教授
研究者番号：10054826
高 龍秀 (KO YONSUO)
甲南大学・経済学部・教授
研究者番号：40234687
裴 光雄 (BAY GWANWOON)
大阪教育大学・教育学部・準教授
研究者番号：60263357

朴 昌明 (PARK CHANGMYONG)
駿河台大学・法学部・準教授
研究者番号：00406539
梁 京姫 (YOUNGKYONGHEE)
大阪市立大学・大学院経済学研究科・特任
助教
研究者番号：90527699
藤 森梓 (FUZIMORI AZUSA)
大阪市立大学・大学院経済学研究科・研究
員
研究者番号：30571814

(3) 連携研究者

なし